

平成23年度 決算を認定

決算審査とは、その年度の予算がどのように使われたか、計画的に効率よく、市民のニーズに応えていたか、などを審査するものです。平成23年度決算の概要と、決算審査特別委員会で行われた質疑応答の一部をご紹介します。(内容は要約しています)

一般会計

● 民生費 約91億7千万円

○前年度比+414万円

高齢の方や障害のある方、保育などの福祉の充実に

Q 私立保育園が1園改築され、定員枠が拡大されたが、23年度末での保育園の待機児数は、
A 24年度当初で、0歳4人、1歳2人、2歳4人の合計10人だった。

Q 3つのワクチンの23年度の接種実績は、

A 子宮頸がんワクチンが48・6% (対象:中1~高1)、ヒブワクチンが18・5% (2~7か月児の接種率103%)、

Q 小児用肺炎球菌ワクチンが21・3% (2~7か月児の接種率95・7%) だった。

Q 急患センター機能の福生病院への

A 移転の、市民側から見たメリットは、重篤の場合など、すぐに入院等の処置で対応できるというメリットがあるので、進めていきたいと考えている。

Q これから自然休暇村のあり方に

A 市の特徴である各施設全般について見極めて検討していくかなくてはならない。今後の課題と認識している。

Q これからの自然休暇村のあり方に

A ついての考えは、

Q これから自然休暇村のあり方に

一般会計決算に対する意見

一般会計の審査では、4人が認定に賛成の立場から、3人が反対の立場から意見を述べました。



限られた予算の中で工夫し行政需要に的確に対応した

認定に賛成

世界経済の減速等の影響により、市税収入も低迷し、引き続き普通交付税の交付団体となつた。平成23年度は第四次長期総合計画の最終年度として、計画事業の積極的な推進に取り組んできた。

また、二次にわたる緊急経済財政対策を講じ、経常收支比率の改善や財政調整基金の安定化等にも努力している。一般会計決算を総合的に見ると、厳しい財政状況の下、限られた予算の中で創意と工夫を凝らし、市民福祉の向上に努め、様々な行政需要に的確に対応した内容である。

引き続き効率的で効果的な行政運営の推進を望み、賛成する。

評価できる施策はあつたが問題点も多い

子宮頸がんワクチン接種や災害用防災備蓄倉庫設置など、評価できる施策があつた一方で、入学資金融資制度は人数、金額とも大きく減らされ、図書館の書籍、雑誌購入費はマイナス、また、多くの市民が反対し続けている羽村駅西口区画整理事業に多額のお金を使うなど、数多くの問題点をもつ決算で、認定に反対する。

施策の優先順位が間違っている

認定に反対

平成23年度決算は、4億7500万円の交付税をもらい、8億円の借金をしてやりくりした内容である。

3月に起きた福島第一原発の事故により、自治体は新たな対策が求められた。空間放射線量測定や水道水の放射性物質測定は実施されたが、要望の高い給食の測定は実施されていない。図書館の雑誌数が極端に減少し、情報・文化発信拠点としての基本目的が果たせない。利用者の多かった高校入学の奨学金制度も廃止された。市民生活に直結する施策は削減しながら、西口区画整理には2億8千万円も繰り出した。施策の優先順位が間違っているため、認定に反対する。

市民や企業の要望に応え市税収納率向上にも努めた

認定に賛成

平成23年度は第四次長期総合計画の最終年度という重要な年度であった。しかし平成22年度末に発生した東日本大震災は市の行政運営、市民生活、企業活動に多くの影響を与えた。その影響の中、市民や企業の要望に応え、夏期日曜日保育事業の実施、被災地支援等、素早い対応を行つた点、市税収入についても収納率向上に努める等、歳入の確保ができる点、経常收支比率も95・1%と改善された点は評価できる。一方、事業や助成金、補助金の見直しや施設の維持管理問題等、課題も残された。

さらなる安定的な財政基盤の確立と歳入の確保を図ることを望み、賛成する。

事業費削減が市民に不便を強いている

認定に反対

厳しい財政状況下での黒字決算は理解する。財調への積み増しも必要である。

しかし、経常経費削減や交付金、補助金の増額分を充てたのなら、23年度の市民サービス低下につながる。市長は「市民生活に影響を及ぼさない」と述べるが、事業費削減はすでに市民に不便を強いている。図書館の雑誌60誌ほどの購入停止は入館者数の一割減に影響した。住民が反対する区画整理事業への繰り出しは財政危機の恐れからも認められない。土地権利者の会補助金は、目的外使用として返還させるべきであり、認定に反対する。

市民サービスの質を守り効率的かつ効果的に運営

認定に賛成

平成23年度は、二次での「緊急経済財政対策」を講じ、財源確保と経常経費の削減に取り組み、当初の予算がどのように効率的、効果的に執行され、行財政改革に取り組んだか、今後の課題は、との視点で審査した。

市民サービスの質を守り、効率的かつ効果的な行財政運営を図るとして取り組んだ予算執行である。行政改革を推進し、知恵と活力ある市政運営をさらに期待するものであるとともに、防災・減災にどう備えられるか。こうした市民の皆様にこたえていただきたいことを申し添え、賛成する。

自主財源の確保が図られ、効率的業務体制も構築

認定に賛成

歳入面において財政上重要な自主財源の確保が図られ、特に厳しい経済情勢のもと市税収入が前年を上回る結果となつていることを評価する。また、平成23年度は第四次長期総合計画の最終年度になり条例制定が実現している。さらに、行政組織の見直しが行われ、機能の集約化が図られたことで、効率的業務体制が構築された。

今後、この状況を維持または向上させるために、なお一層の行財政改革を推進し、さらなる努力をお願いし、賛成する。

決算審査のながれ

Q：決算の認定はどのように行われるのですか。

A：次のような流れで進めます。

①本会議で、決算審査特別委員会を組織します。

(羽村市議会では、議長と監査委員を除く議員で構成されます。)

②決算審査特別委員会で決算を審査します。

■各会計ごとに質疑応答
…議員の質問に市側が答えます。

■意見開陳

…質疑応答が済んだ後、この決算についてどんな意見を持ち、認定することに賛成なのか反対なのか、意見を表明します。

*右に掲載している意見は、このときに述べられたものです。

■委員会での採決
…決算審査特別委員会として、この決算を認定するかの賛否を決します。

③本会議で議決します。

…決算審査特別委員会での賛否を踏まえ、本会議で、羽村市議会としての賛否を決定します。